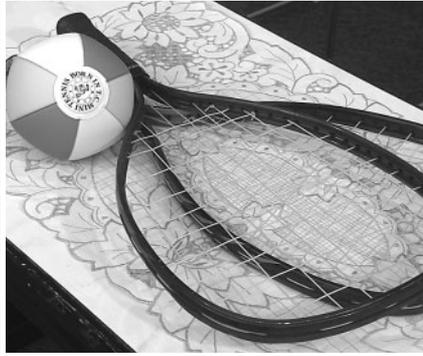


市長の ふれあい訪問

●今回の訪問先●

「川口市ミニテニス協会」

中高年齢者の健康増進を目的に、市内で10年ほど前から普及され、手軽に始められることから今では幅広い年齢層のかたがたに愛好されているミニテニス。市内の競技人口は1千人を超えています。この競技の普及を通じ、生涯スポーツの輪を広げ市民の健康増進を図ることを目的に、平成18年7月に設立された「川口市ミニテニス協会」のみなさんを岡村市長が訪問。競技の魅力や活動内容などを聞きました。



市長 みなさんこんにちは。寒い日が続きますがいかがお過ごしでしょうか。さて、今月の市長のふれあい訪問は「川口市ミニテニス協会」のみなさんです。どうぞよろしくお願いします。はじめに会長の西田さんからミニテニスについて説明してください。

西田 ミニテニスは、中高年の健康増進のために、昭和61年に東京都の立川市で生まれました。市では体育指導員が普及してきましたが、平成18年に協会を立ち上げ、今では、会員が28団体462人、競技人口全体では市内で1千人を超えて全国一の盛り上がりを見せています。

市長 全国ではどのくらい広まっていますか。

加藤 25都道府県で行われ、競技人口は3万人位といわれています。

市長 早速ですが、ミニテニスのルールを教えてください。

平林 室内競技で、専用のラケットとボールを使い、試合はダブルスのみです。バドミントンのコートを使い、ネットは地上1mの高さで、必ずワンバウンドしてからラリーをするようになっていきます。



市長 ラケットも軽く、ボールも小さいビーチボールみたいですね。誰でも入りやすいスポーツのようですが。

若井 若い方からお年寄りまで親しめるので、市内でずいぶん広まってきました。私自身70歳を過ぎましたが、楽しくて仕方がないです。

加藤 ミニテニスはボールが命です。軽いボールに回転を与え変化させるところが面白いです。高齢者でも、経験があると、回転を読み先回りして打ち返せることで若い人に対抗できます。腕力だけでは勝てないところが、

ミニテニスならではの特徴だと思います。

市長 激しいプレイもあるが、老練なプレイもあるということですね。年代層はどのような方が多いのですか。

加藤 川口では80歳代の方が2名登録しておられますが、やはり中高年の方が多くですね。

市長 チームはどのような形態が多いのですか。

平林 夫婦でやられている方も多いので混合のダブルスが多いです。

市長 今日は若い方の代表もいらっしゃいますが、始めたきっかけは何ですか。

武部 大学生の時に始めました。きっかけは父が始めたことで、母、弟に次いでいつの間にか私も引き込まれ、家族みんなやっています。

市長 そうして輪が広がっていくのですか。

武部 そうですね。年齢に関係なくできるので。

市長 ミニテニスを通じて、家族の団欒や地域の絆が生まれるところが、とても良いところだと思います。それに、ミニテニスが広がれば、ラケットやボールの生産など関係する企業も潤い、新しい産業にもつながります。経済にも貢献しているという点ですね。

武部 家族でいても、今日の練習や試合の内容などミニテニスの話ばかりです。

若井 友達がたくさんできます。



終わった後や、試合中でも美味しいものがたくさん出てくるので、それだけで話はずみです。

市長 まさに生涯スポーツですね。ぜひこの輪を広げてもらえれば大変うれしく思います。それでは今後の抱負をお聞かせください。

西田 年齢の隔てなく市民のみなさんが仲良くなるよう、ミニテニス仲間になりコミュニティを広げていくことを大きな目的としてやっていきたいと思っています。

市長 スポーツは美容と健康の増進になり、若さを保つ秘訣でもあります。コミュニティを広げる大きな意味もありますので、ぜひこれからもミニテニスを広めてください。今日はありがとうございました。